

平成28年度 学校評価

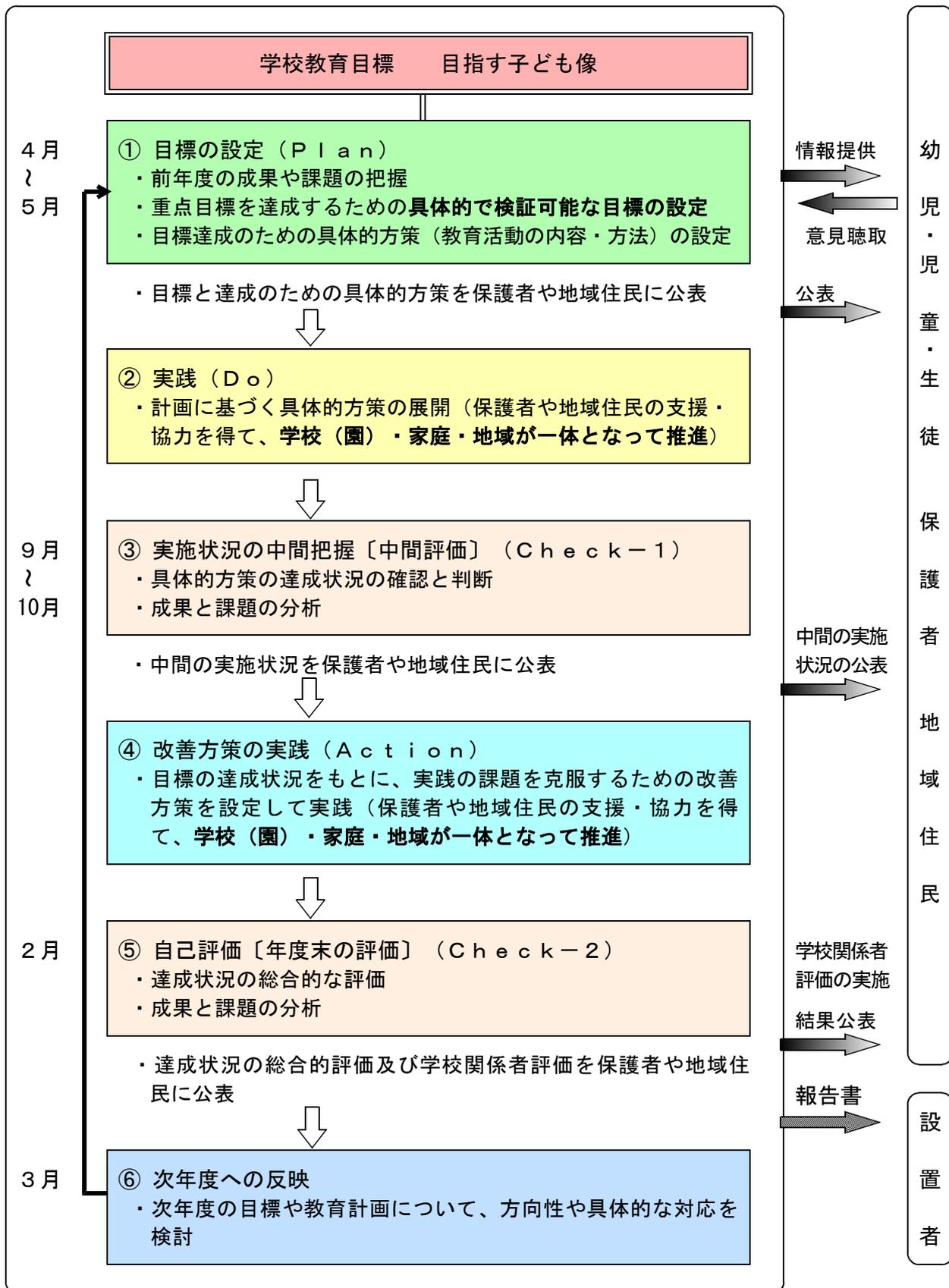
平成28年度 「自己評価」

・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成28年度 秋田県立新屋高等学校 教育計画

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

2 教育方針

- I 基本的生活習慣の確立 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成
- II 学力の向上 強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成
- III 特別活動の充実 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成
- IV 進路目標の早期決定と実現 早期に進路目標を決定し、その実現に向かって真剣に努力する人間の育成

3 経営方針

- I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。
- II 重点目標
 - (1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。
 - ①地域の学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。
 - ②校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
 - ③家庭と連携し、必ず朝食を摂るなど規則正しい生活を送ることにより、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
 - ④危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。
 - ⑤スクールカウンセラーや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。
 - (2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
 - ①朝学習を10分間とし、心を落ち着かせてから授業に取り組ませることにより、学力向上につなげる。
 - ②3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かせないなど、集中力を高める工夫を行う。
 - ③評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
 - ④学習に関するオリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
 - ⑤授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。
 - ⑥「休養日」の設定や、部活動終了時刻の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
 - ⑦教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。
 - (3) 生徒会活動や部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
 - ①生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。
 - ②日々の練習を通して、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。
 - ③創立40周年に向かう新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
 - (4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標実現に真剣に取り組む生徒を育てる。
 - ①学級担任は、1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒の自主的な進路目標決定を支援し、進路実現に向けて必要となる具体的な取り組みを設定させ、指導する。
 - ②学年部は、生徒一人ひとりの進路目標達成のために力を尽くし、生徒の主体性を尊重しながら適切な指導を行う。
 - ③部活動顧問は、部活動の目標が生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力を通して進路の実現を図らせる。
 - ④進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会を通して生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。
 - ⑤「総合的な学習の時間」を、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

評価領域	生徒指導・地域連携
------	-----------

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	マナーアップ指導の徹底を重要課題として生徒指導を展開している。身だしなみを整える事に関しては評価を得ることができたが、あいさつの励行に関しては、校内外共にできていないと指摘を受けている。自ら進んであいさつができる、“生き方指導”がこれからの生徒指導の求められる最重要課題である。	
具体的な目標	①規範意識向上に努める。②非行、事故の未然防止と、問題行動時の適切な対応 ③学年部・教育相談部・地域・家庭との密接な連携。	
目標達成のための方策	①パワーポイントを使用し学校内外でのモラルやマナーを説明しロールプレイングでよりわかりやすく行う。生徒自身でポスターを作り全校生徒に注意喚起する。いじめ問題を寸劇から考えさせる。 ②毎朝の昇降口指導、定期的な整容指導で制服を正しく着用させる。問題行動発生時に備え定期的な指導部員の意思の疎通をはかり、発生時には迅速な対応と保護者への丁寧な対応を心がける。 ③職員間の報告・連絡・相談を怠らない。定期的な地域社会との情報交換を行い情報収集を怠らない。	D
具体的な取組状況	①4月、新入生を迎え直ぐに全校集会を開きスクールマナー集会を開催。野球部員が演じる寸劇を混じえながら、主に自転車の乗り方といじめ問題について大きく取り扱う。また、生徒自身で、盗難、携帯電話の使用基準、海水浴などのポスターを作成し、全校に貼り出すなどの注意喚起を主体的に行った。いじめアンケート、悩み相談ボックスの設置で生徒がどんな小さな情報でも伝えられる環境作りを行った。 ②地域の青少年育成委員の方と月一度の新屋駅での駐輪場指導とあいさつ運動。三ヶ月に一度の職員による街頭指導。 ③集会時には必ず問題行動に関する事例を挙げ注意を促し、全校一斉に行われるアンケートの状況をきめ細かく分析し、問題行動の未然防止に役立てている。清掃ボランティアや地域に設置されている特別支援教育施設訪問を実施し、思いやる心と生きる力を育むと同時に、地域住民とのかかわりを深め、地域の一員としての自覚を持たせている。	
達成状況	①1年生はもちろんだが2、3年生に対しても効果がある。先生方に対する言葉遣いや職員室入室時などの挨拶や言葉遣いも適切に使分けられるようになった。生徒が主体的に活動する意識が出てきた。その例がポスターを自らの手で作り、全校に貼り出す取り組みとして現れた。また、野球部、弓道部、生徒会の挨拶運動も年々活気を帯びてきており、全校生徒にも広がりが見られるようになった。 ②昨年度より地域での生活の行動に変化が見られた。 ③定期的な校内巡視、三ヶ月に一度の街頭指導、最寄りの交番や青少年育成委員の方との情報交換で生徒の動向を把握し、問題行動の抑止力にもなっている。地域社会に貢献するボランティア活動にも積極的に参加し、自己肯定感や自己有用感を獲得することができた。	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠)</p> <p>①寸劇を混じえたスクールマナー教室の取り組みの効果は十分あった。特にいじめ問題については深く考える事ができた。</p> <p>また、場面に応じた挨拶や言葉遣いなどは適切に使えるようになったことや、携帯電話の使い方、モラルやマナーなどの問題行動は未然に防止された。生徒自身で、盗難、携帯電話の使用基準、海水浴場での注意などのポスターを自ら作り注意喚起を主体的に行った。</p> <p>②三ヶ月に一度の街頭指導の取り組みの成果は規範意識の向上に繋がった。校外での振る舞いは昨年度より向上した。</p> <p>③校外での巡視や様々な機関からの情報収集により生徒指導部だよりでの情報提供をきめ細かに行ってきた。</p> <p>年々スマートホンを使用する生徒が増加し、新たな問題が発生しかねない状況になってきた。先行する技術や生徒の使用技術に対してどのような指導をしていくべきかが課題である。学校周辺の巡視の際に、校外での生徒の生活状況を把握し、学校側からの情報も伝えるなど連携を図れた。</p>	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

- A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>寸劇を交えたロールプレイング手法によるスクールマナー教室は、生徒が主体的に取り組み規範意識向上に効果が現れているが、登下校時の歩道の使用状況やスマートホンの使用に関しての指導を強化するべきである。</p> <p>地域の行事に積極的に参加し評価している。「おらほの学校」として地域に密着した活動は、新屋住民との誇りとして感じている。また、町内のゴミ拾いや玄関先で倒れた老人を的確に対応するなど感謝されている。</p> <p>学校の情報が思うように保護者側に伝わっていない、という指摘があるようだが、保護者が何を知りたいのか、何を求めているのか学校ホームページを含め情報伝達のあり方を考えるべきである。</p>	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>社会問題となっているいじめ問題に生徒と向き合い、学校全体でいじめのない空気づくりを推進してきた。生徒自ら考え行きたいじめ問題の寸劇は、具体的な場面を体験し生徒間で教え合うことによって、より深く心に残すことができた。</p> <p>また、スクールマナー教室が校内はもちろんだが校外での振る舞いに生かされている場面もあるが、依然として交通ルール遵守に対する意識の低さが自転車の交通事故多発（今年度は10件）に繋がっている。交通安全マップ、不審者出没危険マップの精度を上げ、生徒の命を守る取り組みと、地域社会を後押しできる人材育成を強く深く推し進め、スピード感のある正確でタイムリーな情報伝達を心掛けたい。</p>	A
-----------------------	---	---

評価領域	学力向上・進路指導
------	-----------

重点目標	個々の能力・適性を伸ばすきめ細かな学習指導・進路指導を行い、早期に明確な目標を持ち、その実現のために進んで努力する生徒を育てる。	P
現 状	<p>学校全体として落ち着いて授業に取り組み、進学・就職とも実績が上がって来ているが、次のような課題がまだある。</p> <p>①授業で生徒の主体的な取り組みを十分に引き出せていない。 ②社会に対する興味・関心・知識が薄い。 ③進路目標設定が遅い。 ④家庭学習の習慣が確立していない生徒が多い。</p>	
具体的な目標	①授業改善 ②キャリア教育を通じた精神的な成長・成熟 ③早期の進路目標具体化 ④家庭学習時間の増加 ⑤個に応じた指導	
目標達成のための方策	<p>①授業改善…アクティブラーニング型授業の要素として、生徒同士の主体的、協働的な学習活動を取り入れ、学力を向上させる工夫をする。</p> <p>②キャリア教育による精神的成長…将来の目標を持たせたる進路講話、職業ガイダンス、進路別ガイダンス、大学模擬授業、総学の活用等。キャンパス訪問(1年生)、職場訪問(2年生)の実施。進路に関する読書指導(1・2年生)。朝の新聞読み(全校)。</p> <p>③1・2年次の進路目標具体化…二・三者面談の充実。ガイダンス等の充実。キャリアアドバイザーによる積極的な支援。</p> <p>④家庭学習時間の増加…週末課題等、授業に活かせる宿題・課題の工夫。朝学習による自学・自習の定着。「部活動休養日」の確保。夏・冬休み初めの「学習強化期間」。学習時間調査の実施。</p> <p>⑤AO・推薦入試、就職試験対策面接小論文指導。</p>	D
具体的な取組状況	<p>①授業改善に向けて、授業アンケート、互見授業をそれぞれ2回実施。研究授業は5教科で行ったほか、ICTの活用についても授業研修を行った。</p> <p>②進路別ガイダンス(3年生)、進路講演会(1・2年)、職業ガイダンス・キャンパス訪問(1年)、大学模擬授業・職場訪問・インターシップ(2年)、進路読書指導(1・2年生)、朝新聞等実施。</p> <p>③二・三者面談の充実。キャリアアドバイザーの職業講話・就職指導。進路検討会(3年)。</p> <p>④教科科リエンション(1年生)の実施。各教科シラバス配付。週末課題・朝学習実施。週1日の部活動休養日「ももさだの日」。学習強化期間、放課後・土曜補習の充実。全員模試・TOEIC-Bridgeの実施(1・2年生)。学習時間調査を4回実施し、それに基づいた担任からの声かけや、学年通信による呼びかけ。</p> <p>⑤面接・小論文対策委員会を立ち上げ、全校体制で個別指導をする。</p>	
達成状況	<p>①「授業の規律を守らせ、生徒の主体的・協働的な学習活動を促す授業の実践」というテーマで授業改善を行った。</p> <p>②進路講話、諸ガイダンス、キャンパス・職場訪問等は、進路目標設定のみならず、職業観や勤労観等の育成に結びついている。3年目となる進路読書指導や朝新聞は定着し、AO・推薦入試等に臨む土台作りに役立っている。</p> <p>③キャリアアドバイザーのきめ細かな就職指導により、年内に全員就職内定し、難関企業・公務員の合格者も増加した。2年生進路検討会を従来の冬休みから秋に前倒しして実施し、受験生としての自覚を早期に持たせるよう図った。</p> <p>④夏・冬休みの学習強化期間に、特別の事情のある生徒を除いて1・2年生の概ね全員が出席した。ただし、家庭学習時間は各学年とも約1時間/日で昨年並である。</p> <p>⑤面接・小論文指導開始を早め(3年夏休み前)、国公立大推薦・AO合格は増加の見込み。</p>	

自己評価	(評価) B	(根拠) 生徒の学力向上と進路実現のために、授業改善に向けた諸取組やキャリア教育充実に向けた工夫を図った。 各項目の生徒評価は、総じて昨年度並みまたは改善を見ている。生徒の「ベル着ベル授業の実施」「授業の規律遵守」への意識は高くなった。一方で「授業のわかりやすさ、内容の充実」について十分に満足している割合が低い。特に保護者にとって「家庭学習や宿題にしっかり取り組んでいるか」と共に「そう思う」の割合は極端に低い。「各教科の補習は効果的か」の評価は、昨年度よりかなり良くなっているものの、他の項目に比べて低い。 早期に進路目標を定め、それに向かって精一杯努力することが十分にできていない生徒が、まだ少なくないことが課題である。また、保護者の評価は概ね昨年度並みではあるが、「補習は効果的か」以外の項目で生徒評価に比べて低くなっている。学力向上や進路指導の取組の状況について、より周知を図っていく必要があると思われる。	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

- A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	(根拠) 互見授業・研究授業などを継続して、さらなる授業改善に努めてほしい。 キャリア教育や個への指導等の取組みの成果が、進学率向上や公務員合格増などに現れている。しかしながら、国公立大学については、目指している生徒数に比して達成者が少ない。家庭学習への取組み、進路達成に向けたやる気などがまだ不十分なことが原因であろう。部活動におけるように、目標の視覚化や目標に対する現状位置の把握などを工夫して、モチベーションの維持を図ってほしい。	C
------------	---------------	--	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>アクティブ・ラーニングの授業への導入は一般化してきたので、それを学力向上につなげる方策とする工夫が求められる。</p> <p>家庭学習については、学習時間を調査する一方、1・2年生のうちからそれぞれの時期に何をやるべきかという内容をより明確に示すことが求められる。</p> <p>また、今年度3月から、先輩講話を全体会形式から分科会形式に変更して講師役のOB数を増やすことで、自分も進路達成して後輩に体験を伝えたいという憧れを持たせたいと考えている。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	特別活動の充実
------	---------

重点目標	健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。	P
現 状	生徒会活動では、学校行事に積極的に取り組むとともに地域行事やボランティア活動にも積極的に参加している。部活動では、ここ数年でサッカー部の全国選手権大会出場や弓道部の全国大会入賞・東北大会優勝、バドミントン部のインターハイ連続出場等の成果があり、こうした活躍を強化指定部の硬式野球部や吹奏楽部をはじめ、部活動全体の活性化につなげていくことが重要である。	
具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達	
目標達成のための方策	<p>①生徒会活動の充実・・・執行部を中心に、主体的な行事の企画・運営ができるよう指導する。地域との交流を深めるため、学校行事等について地域への周知を図る。</p> <p>②部活動の活性化・・・全国や東北レベルで活躍できる部の育成のため、ある程度の絞った予算配分や補助等、学校全体としての支援体制を確立する。各部において適切で合理的な指導が行われるよう各顧問の意識を高める。</p> <p>③心身の調和した発達・・・文武両道の精神に則り、学業や部活動に高校生としての本分を尽くせるよう個々の自覚を促し、それぞれの目標に対する意欲を高める。</p>	D
具体的な取組状況	<p>①生徒会執行部を中心に、一般生徒の意見も取り入れながら、主体的な生徒会活動や学校行事に取り組んでいる。広報誌等による学校行事の周知に努め、恒例となっている地域の祭りや各種ボランティア活動には、一般生徒も含め積極的に参加している。</p> <p>②定数減の影響もあり、限られた予算や人員を最大限に活かすため、各部の実績に応じた強化費の配分や活動のない部の休止、各部の実情に応じた外部コーチの委嘱等により部活動の活性化を図った。</p> <p>③「百三段の日」や学習強化期間の徹底により、部員の学習時間確保に努めた。また、考査前には部単位での勉強会を実施するなど部員の意識向上を図る取り組みも見られた。</p>	
達成状況	<p>①生徒会活動では、短い期間の中でも集中して準備に取り組んだ学校祭や体育委員を中心に運営し、各クラスが競技や応援に結束した校内体育大会など、学校行事を全校生徒で盛り上げた。また、日吉神社の祭礼や大川散歩道雪祭り、栗田支援学校運動会ボランティア等、地域との交流活動に積極的に参加した。</p> <p>②今年度は、弓道部の男子個人、バドミントン部の女子シングルス、剣道部の男子個人でインターハイに出場し、バドミントン部の女子シングルスでは国体出場を果たした。東北大会には、陸上競技部・バドミントン部・剣道部・弓道部が出場した。また、サッカー部（全県新人優勝）・弓道部・バドミントン部（全県新人団体優勝）は東北新人大会出場、弓道部・バドミントン部は全国選抜大会出場を決めている。</p> <p>③百三段の日（部活動休養日）や学習強化期間の定着により、学習時間を確保し、部活動と進路目標達成を両立できる環境が整ってきている。</p>	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠)</p> <p>①生徒会活動では、執行部を中心に各行事に取り組み、アンケートでも、新高祭や校内体育大会などの満足度は高く保たれているが、マンネリ化しないため、一般生徒の意見を取り入れるなど今後も運営に工夫が必要である。地域行事への参加やボランティア活動は恒例化しているが、一般生徒を交え、さらに活発にしていきたい。</p> <p>②全国大会出場の弓道部、バドミントン部、剣道部の他、全県新人で優勝したサッカー部や団体優勝して全国選抜大会出場を決めたバドミントン部など、今後活躍が期待できる成果をあげている。定数減が続く中、限られた予算と人員を最大限に活かし、部活動全体の活性化につながる強化・支援体制の充実が必要である。また、施設設備の不備や老朽化に対応して、特に安全対策の強化が重要である。</p> <p>③休養日や学習強化期間を有効に活用し、部活動と学習の両立に結びつけている生徒も見られるようになり、アンケートでも、生徒・保護者とも若干数値が上昇しているが、他の項目と比較するとまだ改善の余地がある。</p>	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

- A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>全国大会出場の他、県大会で活躍している部も多くあり、限られた環境や時間の中で良く成果を出している。全国大会出場は地域に活気をもたらすものであり、その他の部も含めて高い目標を持って取り組んでくれることを期待している。また、勝つことも大切だが、地域奉仕や挨拶がきちんとできる生徒を育成している部についても評価している。部活動と学習の両立については、これで良いとの結論はなく、これからも改善に努めてもらいたい。施設設備の充実については、安全面からも検討の必要性を感じる。生徒会活動で地域の社会人と接することは、自分の人間形成に良い影響を与えてくれる機会でもあり、これからも積極的に取り組んでもらいたい。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>全国大会に出場した弓道部やバドミントン部、剣道部の他、サッカー部や硬式野球部、吹奏楽部等の活躍には、地域住民からも大きな期待が寄せられている。定数減の中でも予算を有効に使い、外部指導者を効果的に配置するなどの支援体制の継続とともに、安全に伸び伸びと練習に取り組める環境整備についても検討が必要である。</p> <p>生徒会活動では、執行部を中心に毎年取り組んでいる地域行事への参加やボランティア活動の趣旨を一般生徒にも浸透させて参加者を募ること。新高祭準備を2日間とすることで、短い準備期間の中でも各クラスの創意工夫や特色を活かして学校祭を盛り上げること。一般生徒の意見を取り入れるやすい仕組みづくり等の検討が必要である。</p>	A
-----------------------	--	---